産地生産基盤パワーアップ事業
都道府県事業計画書（収益性向上対策）
（都道府県事業実施状況報告書兼評価報告書）

策定：令和２年３月23日
変更：令和５年３月17日

都道府県名　新潟県

Ⅰ　産地パワーアップ計画（収益性向上タイプ）

１　成果目標

販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状 年度	現状 面積	単位	現状 生産量又は出荷量	単位	現状 価格（販売単価）	単位	現状 生産コスト	単位	目標 年度	目標 面積	単位	目標 生産量又は出荷量	単位	目標 価格（販売単価）	単位	目標 生産コスト	単位	実績 年度	実績 面積	単位	実績 生産量又は出荷量	単位	実績 価格（販売単価）	単位	実績 生産コスト	単位	スマート農業推進枠 導入・定着の取組の実施内容	地域（県又は国を含む）の価格（販売単価） 事業実施前年度	単位	目標年度	単位	補正係数	価格補正後の実績	事後評価の検証方法（※定量的な検証ができること。）	達成率（%）	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考	目標の実現可能性
西蒲区農業再生協議会	34	新潟市西蒲区	施設野菜（ミニトマト・野菜苗・レタス類）	高度環境制御栽培施設を整備することでレタス類の周年計画生産を行い、収益の向上を図る	販売額の10%以上の増加（10aあたり）	3	18,124	千円/10a	5.69	ha	ミニトマト：380,465 野菜苗：10,212,000	kg 本	ミニトマト：704 野菜苗：75	円/kg 円/本	6	25,697	千円/10a	7.15	ha	ミニトマト：380,465 野菜苗：10,212,000 レタス類：573,104	kg 本 kg	ミニトマト：704 野菜苗：75 レタス類：1,406	円/kg 円/本 円/kg	R6	15,156	千円/10a	7.71	ha	ミニトマト：364,651 野菜苗：8,282,396 リーフレタス：96,013	kg 本 kg	ミニトマト：790 野菜苗：95 リーフレタス：934	円/kg 円/本 円/kg								施設野菜の販売額を合計し、施設野菜の作付面積で割って10a当たり販売額を算定し検証する。	▲39.1%	ミニトマトは、夏季の暑熱で夏以降の収量が思うように伸びなかったが、昨年度より収量増加し、増収となった。 野菜苗は、近隣法人の廃業後施設を取得し、令和6年度から稼働を開始したが、取得に係る諸手続きや補修等に時間を要したこと、繁忙期である春先の人手不足から昨年度に比べて生産量が減少したものの、販売単価が向上したため販売額は過去最高となった（ただし、施設増加に伴い面積当販売額に関しては減少。）。 レタス類は、しゅん工遅れにより稼働期間が３か月しか確保できなかったため、目標未達成となった。	○10a当たり販売額は、15,156千円（目標25,697千円）となり、目標を達成することができなかった（達成率▲39.1%）。 各取組の状況や、目標を達成できなかった要因は以下のとおりである。 【既存の取組（野菜苗、ミニトマト）】 野菜苗については、繁忙期である春先の人員を確保できず、また、廃業した近隣法人から施設を取得したものの、本格稼働までに時間を要し生産量の増加につなげられなかったため、生産量は8,282,396本（目標10,212,000本）と振るわなかったものの、単価の高い品種への切り替えや契約先との価格交渉により単価が95円/本（目標75円/本）と向上したことで、販売額が789,933千円（目標765,392千円）と、過去最大の販売額となった。一方で、新規施設の取得による面積増加の15,567m2により、単位面積当たりの販売額は18,591千円/10a（目標20,675千円/10a）となり目標には及ばなかった。 ミニトマトは、生産量は364,651kg（目標380,465kg）と目標をやや下回ったものの、全量契約栽培をしており、契約先との価格交渉により単価が790円/kg（目標704円/kg）となったことで、単位面積当たり販売額は14,109千円/10a（目標13,107千円/10a）となり目標を上回った。 【今回の事業に係る取組（レタス類）】 レタス類については、施設の稼働が輸入部材の搬入遅れにより、R5年度しゅん工予定であったものが、R6.11と大幅に遅れたこと、また施設稼働の初年目であったことから初期の機械調整に時間を要し、本格稼働は１月からとなった。また、播種～出荷に至る作業員の習熟度として、全８レーンのうち４レーン稼働での生産としたこと、これにより生産量は96,013kgとなり、目標（573,104kg）を大幅に下回った。なお、単価については、1,406円/kgの目標としているが、１株当たりの価格で契約しており、目標は１株あたり0.07kgで換算したものである。計画では、一株あたり売価100円、収量70円で、全国に販売網を持つ県外の農業法人（以下、販売先県外法人）に販売することとしていたが、価格交渉により単価が上がり、現在は秀品113円、優品79円で販売している。しかしながら、競合物社が製品の増量を図ったことにより、販売に影響が出たため、１株あたり0.12kgに増量したことで、全体の販売額は低下した。なお、販売先については販売先県外法人の他、県内外のスーパー（原信、マミーマート、ヤオコー）への販売を開始している。（契約条件は販売先県外法人と同じ） ○目標達成に向けた今後の取組について、既存の取組（野菜苗）については、新規取得した施設の稼働を軌道に乗せるため、適切な栽間計画を組むとともに、人員の確保に向けた求人の募集や、組織内での応援体制の構立に取り組むことで生産量を確保し目標達成につなげる。 レタス類については、次年度は後々に稼働ラインを増やし、完全に稼働をする予定であり、通年稼働することで、目標の生産量を確保する。また、販売価格については、需要動向を注視し価格を上げられるよう価格交渉を続けることで目標の達成につなげる。 ○県としては、取組主体の投資額も大きいことから、関係機関・団体と協力しながら、生産動向や販売動向を注視し、取組主体の経営状況を確認しながら適切なアドバイスを行い、目標達成につなげていく。 ○なお、施設利用率は16.7%と低調であるものの、次年度から生産が本格化することで、達成できるものと考える。		国内で同等の設備でレタス類を栽培している企業から栽培指導を受けた本システムを有効活用した栽培に取り組むとともに、全国に販売網を持つ同企業と販売契約を結び販売することで、安定的な販路を確保し、目標数値の達成を見込む。